

I 誰もがいきいきと働く、活力ある産業づくり

1 農林水産業の振興

基本的方向

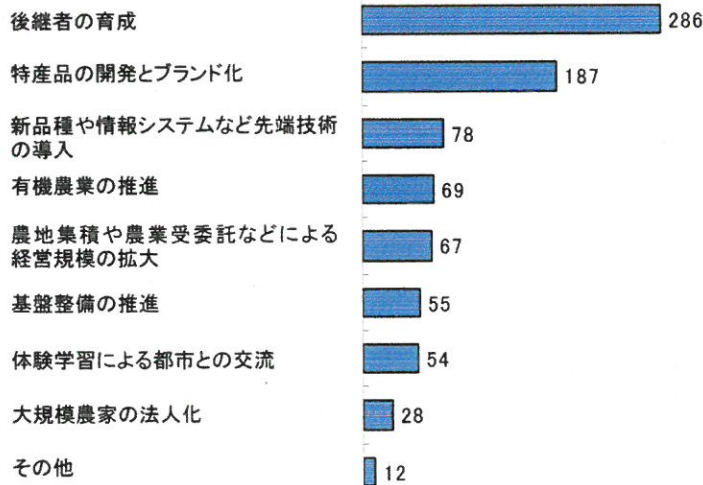
農林水産業においては、担い手や新規参入者の育成支援を図ります。

基幹産業である農業については、生産基盤の充実や品質向上を図り、収益性を高め、魅力ある農業をめざします。

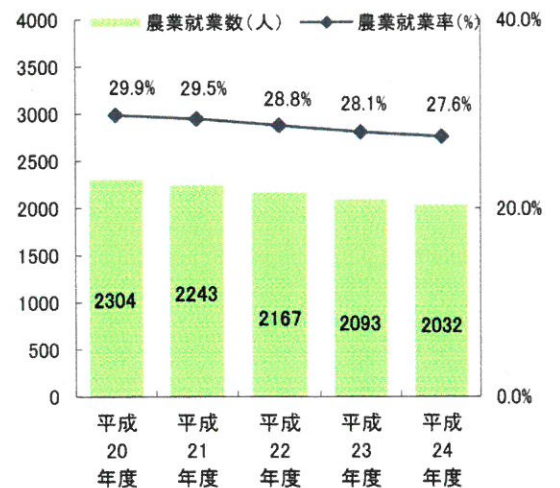
林業については、森林の公益的機能に配慮しながら、基盤整備を図り、経営基盤の強化をめざします。

水産業については、安定的な供給体制の確立をめざすとともに、規模拡大等による一層の経営安定を図ります。

なお、体験型産業や地産地消を推進するため、第2次産業や第3次産業と連携しながら、さらなる振興に努めます。



農業就業人口の推移



※町民アンケート調査結果【農林畜産業発展のための必要事項】

資料：市町村民所得推計報告書

農業の振興

現状と課題

本町の農業は、温暖多照に恵まれた気候と広大な農用地を利用した稲作や、さつまいも、果樹、露地野菜などの土地利用型農業、また、生産牛、肉豚、ブロイラーなどの畜産業が盛んであり、地域産業において重要な役割を担う基幹産業と位置づけられています。

しかしながら、農家戸数の減少や、従事者の高齢化などによる担い手の不足に伴う農地の荒廃が危惧されていることから、地域集落における農地の利用促進や組織的な生産活動の展開による耕作放棄地の解消が必要とされています。加えて、意欲ある個別経営体の育成や特産品の開発・ブランド化など様々な課題を抱えています。さらには、TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）合意による農産物の価格低下に伴う農業所得の減少や離農対策などが予想され、本町の農業を取り巻く環境は一層厳しいものとなってきています。

地域農業を支える担い手である認定農業者についても、法人及び大規模農家は増加傾向にあります。水田や中山間地域においては小規模農家が多くを占めていることから、集落営農組織の育成支援や新規就農者等に対する技術や資金面での支援が求められています。

一方で、地域資源を生かした都市と農村の交流や、農業体験などの受け入れ体制の構築も新たな課題となっています。

本町としては、これまで農業生産基盤や生活環境基盤について、中・長期的に整備を進めてきましたが、さらなる営農推進を図るために、新たな仕組みである農地中間管理機構との連携を図りながら、引き続き総合的な整備を行っていく必要があります。

おおさき未来検討会議 重点提言

- ◇農業振興を基本とする→民泊を伴う農業・漁業・加工体験を広域的に取り組む
- ◇農業法人の育成・大規模農業法人への転換策と人材の投入

施策体系

農業の振興

- ◇意欲ある担い手の育成・確保
- ◇農業生産基盤及び農村環境の保全と充実
- ◇競争力のある農業の推進
- ◇環境保全型農業の推進
- ◇新たな農業への展開

計 画

■意欲ある担い手の育成・確保を支援します！

- ・農業経営に意欲のある認定農業者や新規就農者を育成・確保するとともに、農業法人への誘導を図り、国などの補助・助成制度を活用し、足腰の強い農業経営が実践できるよう担い手育成総合支援協議会を中心にサポートします。
- ・担い手への農地集積や耕作放棄地の解消は、耕作放棄地対策協議会により、農地中間管理事業等を利用し、進めます。

■農業生産基盤及び農村環境の保全と充実に努めます！

- ・農業の持つ多面的機能を発揮するため、耕作放棄地の解消に努め、農業生産基盤の維持を図ります。
- ・農業の生産性の向上や良好な営農条件の確保を図るため、ほ場整備はもとより、農道・かんがい排水等の農業用施設の整備を進めます。また、近年の自然環境の変化に伴い、農地、農業施設を豪雨災害から守るため、必要な排水対策を総合的に進めます。
- ・生活環境の地域間格差をなくし、活力ある農村づくりを進めるため、集落道・集落排水等の生活環境の整備を進めます。
- ・より効率的・省力的な大型機械化を進め、労力や生産コストの低減化等に努めます。
- ・畑地かんがい用水を利用した生産性の高い営農を確立し、受益農家の経営向上を図ります。
- ・近年、国内外において家畜伝染病の発生が確認されており、畜産農家にとって防疫対策が益々重要となってきたことから、さらなる防疫対策の強化に努めるよう指導を行うとともに、飼養管理指導や意識改革等を行い、畜産農家の経営向上を図ります。
- ・有害鳥獣による農作物等に係る被害があることから、防止のための施策を関係機関一体となって、総合的かつ効果的に推進します。
- ・家畜排せつ物の管理の適正化に努め、安心・安全な農産物生産を推進します。

■競争力のある農業を推進します！

- ・多種多様な消費者ニーズに応え、収益性の高い農業の振興を図るため、産地としてのブランド強化や地域の特性を生かした高品質な農作物の生産を推進します。
- ・地産地消の取り組みによる地場農産物の消費拡大を図るため、積極的なPR活動の支援に努めます。

■環境保全型農業を推進します！

- ・良質堆肥等を活用した土づくりと化学肥料・農薬の使用を低減した持続性の高い農業生産方式の導入により、環境に配慮した農業を推進します。
- ・消費者が求める安心・安全な農産物を提供するため、生産工程管理の取り組みを外部機関が認証する「かごしま農林水産物認証制度」等を推進するとともに、生産者の取り組みを支援します。

■新たな農業の取り組みを展開します！

- ・広域的に取り組む農家民泊等による農業体験などを通じ、都市と農村の交流を図り、観光と連携した農業の展開を支援します。
- ・地域振興のため、農産物直売所での農産物販売促進に努めるとともに、自ら生産した農畜産物等を利用して新たに加工、流通販売等を行う6次産業化への取り組みを支援します。



さつまいもの収穫の様子



畜産品評会の様子

林業の振興

現状と課題

本町の森林面積は、3,233haと総土地面積の32%を占めていますが、ほとんどが民有林であり、人工林率は約71%、主としてスギとヒノキによる植生となっています。

これまで、森林施業計画の達成に向け、状況に応じた集団的な施業を行っており、作業路網等の整備により生産基盤の強化が図られてきました。

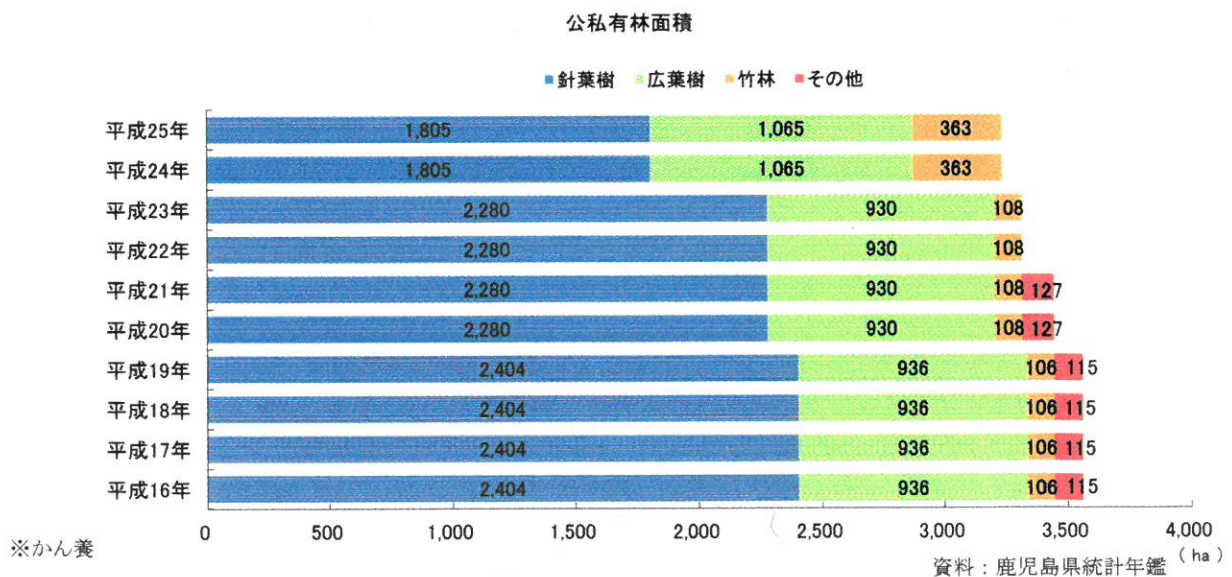
特用林産物の生産振興については、大崎枝物生産組合を中心に、緊密な連携のもとに枝物生産の向上と林業経営の安定を図るための技術講習会や先進地研修等を行い、経営基盤の強化に努めているところです。

また、本町の地域資源である「くにの松原」については、国の補助事業を活用した保全・再生活動や、町内並びに町外からの森林ボランティアによるクロマツの植林や林内の清掃活動を毎年実施しています。

さらに森林の保全等に必要な林道については、定期的な下刈り・除伐等を実施し、併せて整備も行うことで、常に公益的機能が保持できるよう管理にも努めています。

しかしながら、林業を取り巻く状況は、林業従事者の減少や高齢化に加え、木材価格の低迷などによる生産意欲の低下から、適切な森林管理が難しい状況となっています。

山林は水資源のかん養^{*}や土砂の流出防止など、多面的な機能を持っており、このような側面からも林業振興策は重要と認識し、今後も林業担い手の確保による林業経営基盤の強化を進め、木材安定供給体制の整備を図る必要があります。



施策体系

林業の振興

- ◇ 森林空間の積極的な活用
- ◇ 森林の適正管理と資源の有効利用
- ◇ 特用林産物の生産振興
- ◇ 林業担い手の育成・確保



適正管理された森林

計 画

■ 森林空間を積極的に活用します！

- ・ 貴重な地域資源である森林空間を安らぎと癒しの空間として有効活用します。また、森林ボランティアの受け入れなど、交流事業を展開します。
- ・ 有資格者を活用し、森林環境学習の充実を図るとともに、子どもにも早い段階からの環境・体験学習の機会の提供を推進します。

■ 森林の適正管理と資源の有効利用を図ります！

- ・ 森林の持つ水資源のかん養、生物多様性の保全等の公益的機能を発揮できる、健全で多様な森林づくりをめざし、適切な間伐を促進します。
- ・ 間伐材の利活用など、地域資源の有効活用を図るとともに、町産材の公共事業や民間事業への積極的利用を促進します。
- ・ 高性能林業機械の導入等により、木材の安定供給と低コスト化を図ります。

■ 特用林産物の生産を振興します！

- ・ シイタケ等の生産については、消費者ニーズを的確に把握し、その生産振興を図るとともに、有効な新技術について導入を促進します。
- ・ シキミやヒサカキ等の枝物の生産振興を図り、特用林産物の産地化の促進を図ります。

■ 林業担い手の育成・確保に努めます！

- ・ 地域林業の中核的な役割を担う森林組合や関係機関と連携し、地域林業のリーダーとなる人材の育成・確保に努めます。

水産業の振興

現状と課題

本町の水産業は、海面においては志布志湾を漁場としたシラス（イワシ類の仔稚魚※）漁を中心として、機船船曳網（バッチ網）漁業などが営まれ、内水面においては、そのほとんどが養鰻業であり、国内有数の生産地として、広く認知されています。

水産加工業は、シラスを釜揚げした「ちりめん」や、加工うなぎなどが県内外に出荷されています。

水産資源の確保として、海面漁業については、東串良漁協が中心となり、各種補助金を活用したヒラメやマダイの稚魚放流事業を通し、栽培漁業の推進や管理型漁業への取り組みを行っており、内水面漁業については、大崎町内水面種苗採捕組合を中心に、志布志湾養鰻協会等と連携を図り、資源保護のため、成魚の放流を毎年行っています。

しかしながら、近年の水産業を取り巻く環境は、漁獲量の減少、価格の低迷、漁業就業者の減少や高齢化など極めて厳しい状況にあることから、今後も「獲る漁業」から「育てる漁業」への転換を広域的に連携しながら、水産資源の充実をめざした稚魚の放流や、魚礁の設置等を進めるとともに、関係機関と連携を図りながら、担い手の育成、人材の確保を図るための支援に努める必要があります。

施策体系

水産業の振興

- ◇資源の保護増殖と生産基盤の整備
- ◇内水面漁業の振興支援
- ◇漁港機能の維持・充実
- ◇水産業担い手の育成・確保



風物詩となっているシラス漁

※仔稚魚（しちぎょ）

仔魚と稚魚の両者を合せたものの総称。

仔魚とは、魚類の成長過程における初期の発育段階のひとつ。

稚魚とは、魚類の成長過程における成長段階で初期のステージ（仔魚の次が稚魚）。

計 画

■資源の保護増殖と生産基盤の整備に努めます！

- ・海面漁業では，従来の獲る漁業にとどまらず，漁業者と関係機関が一体となって自主的な資源管理を促進し，水産資源を漁業者が自らつくり育てる資源培養管理型漁業をめざします。
- ・水産資源の維持・増殖のため，魚礁等の整備を支援するなど，生産基盤の向上に努めます。

■内水面漁業の振興を支援します！

- ・内水面資源の減少に対応するため，組合等と連携し，成魚の放流による資源の保護と増殖を図ります。
- ・養殖鰻の有数の産地であることから，安心・安全な生産体制の確立や情報発信によるブランド化を支援します。

■漁港機能の維持・充実を図ります！

- ・国・県等の関係機関と連携し，安全で働きやすい漁港機能の維持・充実を図ります。

■水産業担い手の育成・確保に努めます！

- ・新規漁業就業者の確保に向け，関係機関と連携し，海技免許取得の支援を図ります。また，漁業を担う青壮年部や女性部の活動を支援し，中核リーダーとしての育成・確保に努めます。



パイロット事業によるヒラメ稚魚の放流

2 商業の振興

基本的方向

多様化する消費者ニーズや経済社会の情勢を踏まえながら、魅力ある商業空間づくりを推進するとともに、地域産物を生かした商品開発やブランドづくりに取り組みます。

現状と課題

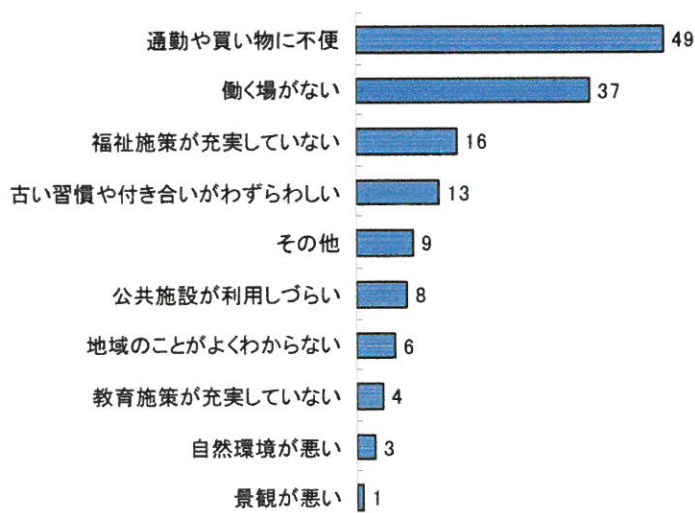
商業においては、町商工会が中心となり実施した「まち」を元気にする取り組みに対し、協力・支援をしてきました。

なかでも商工会主催で三文字地区において定期的で開催される「チャレンジ朝市」は、町内外からのふれあいや交流の場としても地域住民に親しまれています。

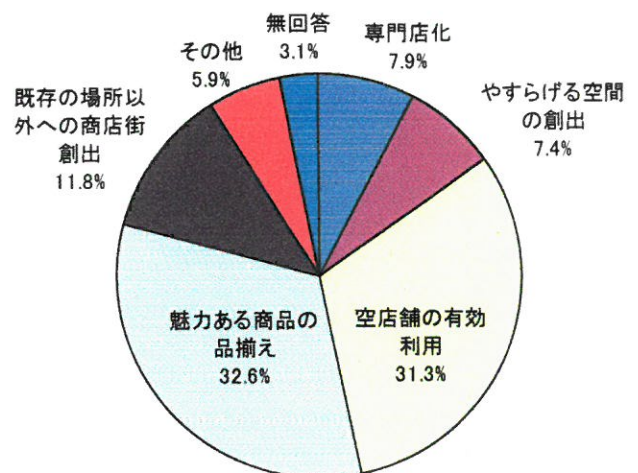
しかしながら、依然として既存の商店街や地域に密着して展開してきた個人商店においては、後継者不足、経済構造の変化などにより、その経営は厳しい状況となっています。

今後も消費者ニーズの把握に努めるとともに、買い物だけでなく、憩いの場や交流の場としても町民に親しまれる多様な機能を備えた、魅力ある商店街づくりや商業拠点の形成に努める必要があります。

また、空き店舗の有効活用や、農畜産物や海産加工物等の消費喚起、地産地消の促進などが課題となっています。



※町民アンケート調査結果【大崎町を住みにくいと思う理由】



※町民アンケート調査結果【商業活性化のための必要事項】

おおさき未来検討会議 重点提言

◇地産地消できる場所の整備，観光施策との連携

施策体系

商業の振興

- ◇商工会と連携した空き店舗対策
- ◇農業や観光と連携した地産地消の推進
- ◇経営体質の強化と育成

計 画

■商工会と連携し，空き店舗対策に取り組みます！

- ・空き店舗の有効活用を図る事業者等を支援し，イベントや観光と連携した商業の振興に努めます。
- ・地域のふれあいや交流の場としても機能する商店街づくりを推進します。

■農業や観光と連携した地産地消を推進します！

- ・マーケット動向や消費者ニーズを把握し，生産性の向上や品質の改善などの創意工夫と消費者に信頼される商品づくりを支援します。
- ・町内消費の拡大を図るため，農業や観光と連携した「地産地消」を推進します。

■経営体質の強化と育成を図ります！

- ・中小規模の小売店の育成と経営の安定化を図るため，関係機関と連携し，融資制度の充実や経営活動への支援を行うなど，経営活動の活性化に向けた取り組みを支援します。
- ・若手経営者や後継者などを対象とした各種研修等を充実させ，将来を的確にとらえる経営感覚を持つ人材育成を支援します。



恒例となった「おおさきチャレンジ朝市」

3 観光の振興

基本的方向

くにの松原や横瀬古墳などの地域資源を活用した戦略的かつ魅力的な施策を推進し、交流人口の拡大による観光産業の振興をめざします。

現状と課題

近年の観光の形態は、小グループによる「参加・体験・学習」などの主体的な観光を求める傾向が強くなってきており、観光の視点も個々の観光地点だけでなく、それらを含む地域全体の景観や美観を重視する傾向が高まっています。

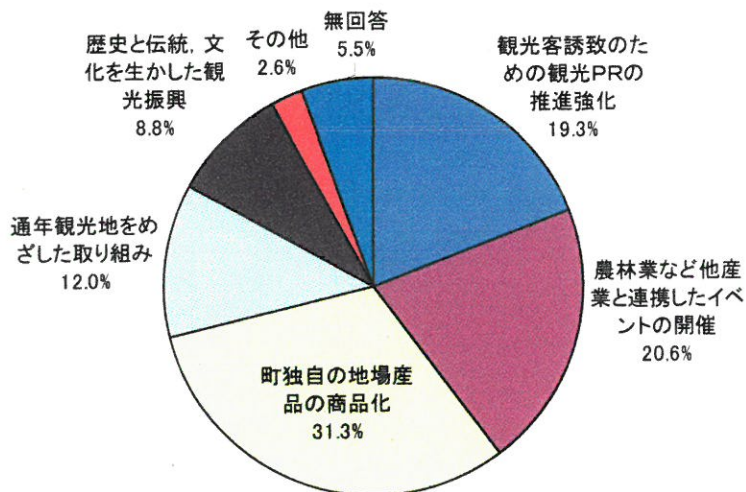
7kmに及ぶ白砂青松の美しい景観で知られる本町の海岸線は、日南海岸国定公園内に位置し、現在も豊かな自然や海浜レジャーを求めて訪れる多くの人々に親しまれており、特に、本町のビーチスポーツイベントについては、毎年県内外から多数の参加者を集め、盛大に開催されています。

また、町営プール、キャンプ場、芝生広場等が整備されている「くにの松原」は、年間を通して町内外の人々に利用されており、今後も、この「くにの松原」を豊かな自然を生かした本町を象徴する観光地としてPRしていかなければなりません。

このほか「ふれあいの里公園」や広域交流活性化センター「あすぱる大崎」は、本町の特色を生かした多様な機能を有する施設として地域住民に広く親しまれており、平成26年に供用開始された東九州自動車道野方ICに隣接する道の駅野方あらさのも、多くの方に利用されています。

今後は、これらの施設を「くにの松原」と相互に連結する観光レクリエーション施設として生かすための方策を検討する必要があります。

そのほか、志布志湾が一望できる「いこいの森」や自然とふれあう「四季の森」、国の重要文化財に指定されている「横瀬古墳」、また伝統行事としての「荒佐祭り」等々、本町は多彩な観光資源をもちあわせていることから、ストーリー性を持たせた新たな観光地づくりや、近隣市町との連携強化による広域的観光の推進など、新たな観光施策へ取り組む必要があります。

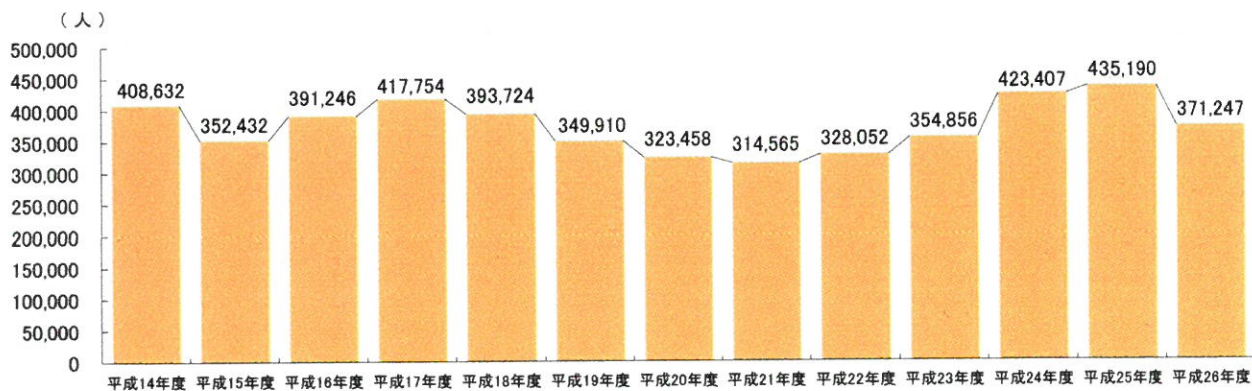


※町民アンケート調査結果【観光振興のための重点施策】



毎年多くの人々が訪れるくいの松原キャンプ場

観光入り込み客数の推移



庁内資料



ビーチスポーツフェスタの様子

おおさき未来検討会議 重点提言

- ◇人工ビーチの整備
- ◇スポーツイベントの前夜祭の開催

施策体系

観光の振興

- ◇地域資源を生かした観光振興
- ◇交流・体験型観光の推進
- ◇観光客の受け入れ体制の整備
- ◇広域観光の推進

計 画

■地域資源を生かした観光を振興します！

- ・「くにの松原」や「横瀬古墳」をはじめ、町内に点在する観光拠点のさらなる魅力向上を図るとともに、それらを有機的に結び、町内における観光の回遊性を高めます。
- ・名所・史跡巡りや祭り，子ども自然体験など，世代ごとのニーズに応えられる魅力的な観光地づくりを推進します。
- ・観光振興を推進するため，ビーチバレー等のビーチスポーツの開催やスポーツ合宿スポーツイベントの誘致に努めるとともに，情報発信等を積極的に行います。
- ・大隅陸上競技トレーニング拠点施設の設置効果を高めるため，周辺地域の環境整備を図ります。
- ・「ふれあいフェスタ」などの既存イベントについては，継続的な開催に努めるとともに，町民参加型の催しや企画を積極的に取り入れます。

■交流・体験型観光を推進します！

- ・各種スポーツ・イベントにおいては，前夜祭を開催し，当日の機運の醸成を図るとともに，町内における滞在交流人口の拡大をめざします。
- ・グリーンツーリズム*やブルーツーリズム*，エコツーリズム*等を推進するため，地域資源を活用した魅力的な交流・体験型プログラムの構築を図ります。
- ・「荒佐祭り」などの伝統文化，「いこいの森」や「四季の森」などの豊かな自然環境を活用した体験学習の機会を各世代に提供するため，多様な取り組みの強化を図ります。

■観光客の受け入れ体制を整備します！

- ・観光客の的確なニーズの把握に努めます。
- ・インターネット等を活用して、観光情報提供のより一層の充実を図るとともに、メディア及び観光キャンペーン等を通じた観光PRにより、観光誘客に努めます。
- ・観光客の満足度を高めるため、観光事業者及び町民を含めた「おもてなし」の意識や観光案内機能の向上など、観光客の受入れ環境の充実を図ります。

■広域観光を推進します！

- ・フェリーさんふらわあや九州新幹線、早期完成が望まれている東九州自動車道のアクセス網の有効活用を図り、広域的な観光連携を推進し、観光交流の促進と地域の活性化をめざします。

※グリーンツーリズム

農村漁村地域において、その自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動のこと。

※ブルーツーリズム

漁村に滞在し、漁業を体験することを目的としている余暇活動及び漁村で楽しむゆとりある休暇のこと。

※エコツーリズム

訪問先の自然環境を破壊することなく、その土地特有の自然・生活文化などの資源を持続させていくような旅行の概念。

4 新たな産業創出と雇用の確保

基本的方向

既存の産業振興はもとより、新たな企業の誘致や育成を図り、年代を問わず様々な町民の就労機会の確保に努めます。また、多様な主体による新産業の創出をめざします。

現状と課題

現在のわが国の経済は、国際間競争の激化や少子・高齢化、環境問題など、様々な課題に即応した経済構造への転換が迫られており、発想の転換や意識改革に立った産業政策の展開が重要視されています。

本町の地場産業の多くは小規模経営であることから、これら経済構造の著しい変化への対応などに加え、後継者が不足する現状など、地場産業を取り巻く環境は一層厳しいものとなっています。

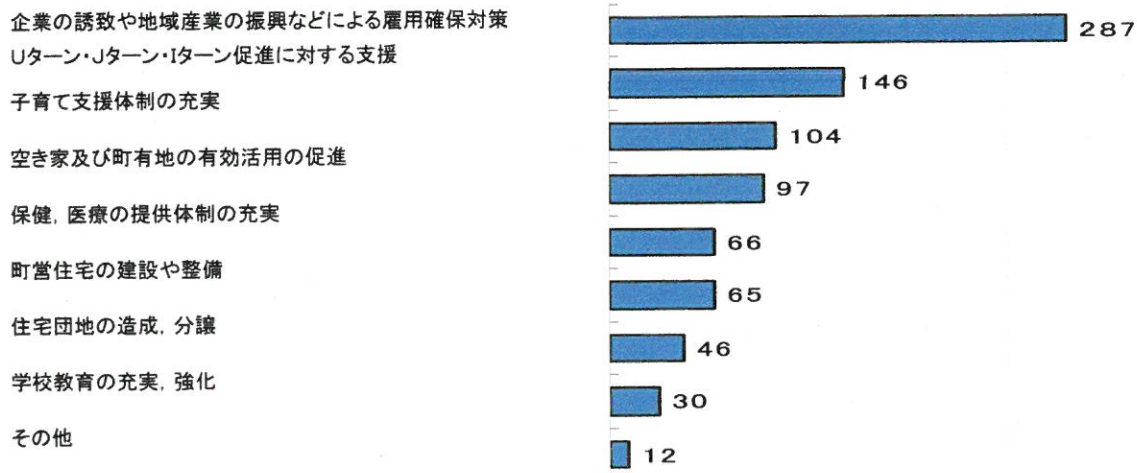
しかしながら、地場産業の振興は、雇用機会の増大や所得水準の向上など、地域経済の活性化を図るうえで重要であることから、農商工連携[※]の促進を図るなど、地域資源を生かした地場産業の振興を図る必要があります。

また、地域産業の経営安定を図るため、これまで蓄積された技術や生産基盤を活用しつつ、生産の共同効率化や販路拡大、消費者ニーズに対応した独自性あふれる新商品の開発、特産品のブランド化など、新たな取り組みも求められています。

さらには、新たな雇用の場の確保と地域経済の活性化を図るため、関係機関と連携し、新規創業や起業を積極的に支援するとともに、東九州自動車道の設置効果を最大限に活用した積極的な企業誘致活動に努める必要があります。

※農商工連携

農林漁業（第1次産業）と商工業（第2・3次産業）の人々が連携し、新しい商品やサービスに結び付ける取り組みのこと。



※町民アンケート調査結果【定住促進のための重点施策】

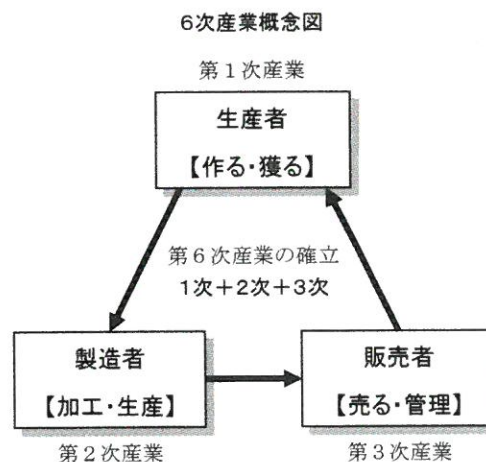
おおさき未来検討会議 重点提言

- ◇自然、文化、歴史、特産品を生かしたおおさきブランドの確立
 - おおさきブランド創造会議の設立
 - 農商工など異業種間のネットワーク化を図る
 - 町民等からアイデアを募る
- ◇定住を見据えた構想
- ◇企業立地の推進

施策体系

新たな産業創出と雇用の確保

- ◇おおさきブランド化戦略の推進
- ◇競争力のある新技術・新産業の創出
- ◇雇用の創出と確保



計 画

■おおさきブランド化戦略を推進します！

- ・地域の資源，特性を生かしたおおさきブランドの確立をめざします。
- ・異業種間の交流が図られるような環境づくりを支援します。
- ・地域製品の販路拡大・販売促進を図るため，積極的なPR活動に努めます。
- ・農商工連携などの動きを発展させ，農林水産業と食品加工業，観光業との連携を推進します。

■競争力のある新技術・新産業の創出をめざします！

- ・新技術の導入や新製品の開発を支援するため，関係機関と連携し，地場産業の活性化を図ります。
- ・企業間や異業種間等で連携して行う事業への取り組みを支援します。
- ・農林水産業の6次産業[※]化や農商工連携を推進し，新たな事業創出に努めます。
- ・産官学連携により中小企業者の研修・学習の機会を増やし，町内産業の経営や技術の高度化を支援する取り組みを進めます。

■雇用の創出と確保に努めます！

- ・企業誘致に関する情報収集に努めるとともに，関係機関と連携した企業誘致活動を推進し，就業機会の創出を図ります。
- ・地元事業所の採用情報等の発信に努め，雇用の確保に努めます。

※6次産業

農業や水産業などの第1次産業が，食品加工・流通販売などの第2・3次産業にも業務展開している経営形態を表す。



町主催で開催された合同企業説明会の様子